奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

令和三年度六月　入賞句一覧

投句数　六百三十五句

一般の部

田中　青志　選

特選

行く春や村に正午のわらべうた　　東京都世田谷区　関戸　信治

明るいけれど侘しい風景、昔は子どもたちの明るい声が響き渡っていたであろう村、今では人っ子ひとりいない村に正午を知らすわらべ歌が朗々と山にこだまする。村起こしが叫ばれて久しいが現実は厳しい。せめてもの村の心ある人たちの願いの籠もる正午を知らすのわらべ唄、子たちよ、若者たちよ、帰ってこいよのエレージーと聞こえてしまうのは僻目というものか。

何をするにも兄の真似柏餅　　大垣市　傍島　隆

柏餅何をするにも兄の真似と書いて欲しかった。私も次男坊、兄が走れば走り、兄が木に登れば登った、何ごとにも兄に負けまいと懸命だった。でも友だちと喧嘩などした時、兄が後ろにいると心強かった思いがある。その兄ももうこの世にいないけれど、この句を読んで懐かしく胸が熱くなった。柏餅は端午の節句の産物だがそれら饅頭ひとつの割り方を諍ったのも、われわれひもじかった世代の昔物語である。

直向きに生きてでで虫恙無し　　大垣市　末守　節子

直向きとは、ひたすらということ。蝸牛に似て何も取得の無い人間ながら、ひたすら前を向いて生きて来た。幸い大きな患いもせず、その代わり人に羨まれるような大きな富を得たわけでもない、でも蝸牛が家を背負って生きているような幸せの中、家族の期待と信頼を一身に受けてまさに恙なくである。自己慢心など微塵も感じられない尊い生き方に拍手を送りたい。

秀逸

街路樹の影ふかくなり夏に入る　　大垣市　北浦　典子

デパ地下の宝石箱やさくらんぼ　　兵庫県芦屋市　田原　トミヱ

鯉のぼり腹にまっすぐ縫ひ目あり　　不破郡垂井町　中嶋　結映

麦秋の向いの山の青さかな　　本巣郡北方町　三輪　幸恵

おばしまの風紫に菖蒲園　　大垣市　岡田　あや子

村中の明るくなりし柿若葉　　安八郡神戸町　高橋　日出美

どくだみの花や廃れし湯治宿　　愛知県豊田市　城山　悠水

ふらここをここまで漕げと手を伸ばす　　大垣市　村瀬　利明

新茶汲む急須の雫尽くるまで　　岐阜市　辻　雅宏

光線のごとく散りたる目高かな　　安八郡安八町　渡辺　うらら

入選

麦秋の真中やロバのパン屋さん　大垣市　高津　喜久子

夏めくや自転車の子も乗る渡船　東京都新宿区　花澤　ちいこ

聖五月抱きあげる子の泣きやむる　大垣市　大杉　すみゑ

やはらかき伊吹嶺の風新茶汲む　養老郡養老町　田中　紫香

茄子の苗植ゑてやさしき小雨かな　大垣市　矢代　由美子

補助輪の兄追ふ妹さくらんぼ　大垣市　宇佐美　昭子

銀輪の女子高生や更衣　大垣市　久保田　悟義

術後の眼若葉青葉のひかりかな　埼玉県川口市　吉永　寿美子

思ひ出をまたとり出して更衣　神奈川県大和市　岩田　爾瑠

牛の尻蠅としっぽの根気かな　大垣市　宮上　美濃瑠

あじさゐの垣根をこえて咲きにけり　大垣市　藤井　美智子

伊吹山仰ぎ青田の生き生きと　大垣市　中山　あや子

路地裏の雨に重たき濃紫陽花　不破郡垂井町　久保田　紘義

父の日の遺影に供ふワンカップ　大垣市　髙木　歌佐

踏んばりて赤子の一歩緑さす　揖斐郡揖斐川町　粟野　みねお

芽吹きたる古木に力貰ひけり　滋賀県甲賀市　甲賀忍者

紫陽花の藍を濃くする今朝の雨　兵庫県神戸市　岸下　庄二

軍艦のペーパークラフトこどもの日　三重県鈴鹿市　松井　政典

魚はねて光る水面や風薫る　神奈川県横浜市　和田　すずめ

新茶汲むをはりの雫一滴まで　不破郡垂井町　児玉　信子

選者吟

まだ夢は捨てず高くへ打つ草矢　青志

一般の部